

SAMPLE

特集レポート No. 016

医薬品開発へのビッグデータ活用

Strictly Confidential



2017年 6月28日

はじめに

- 製薬メーカーにとって医薬品開発は、各社の競争力の源泉となる一方で、化合物発見から新薬としての承認まで、長い期間と多額のコストを要するプロセスでもある
- 新薬開発を高度化・効率化するため、製薬業界においてはさまざまな技術を活用し、各プロセスの自動化やIT化を進める取り組みがおこなわれている
- 本レポートでは、加速しつつある創薬への技術活用と国内企業の動向を整理することで、製薬業界の現状と課題を理解する一助としたい

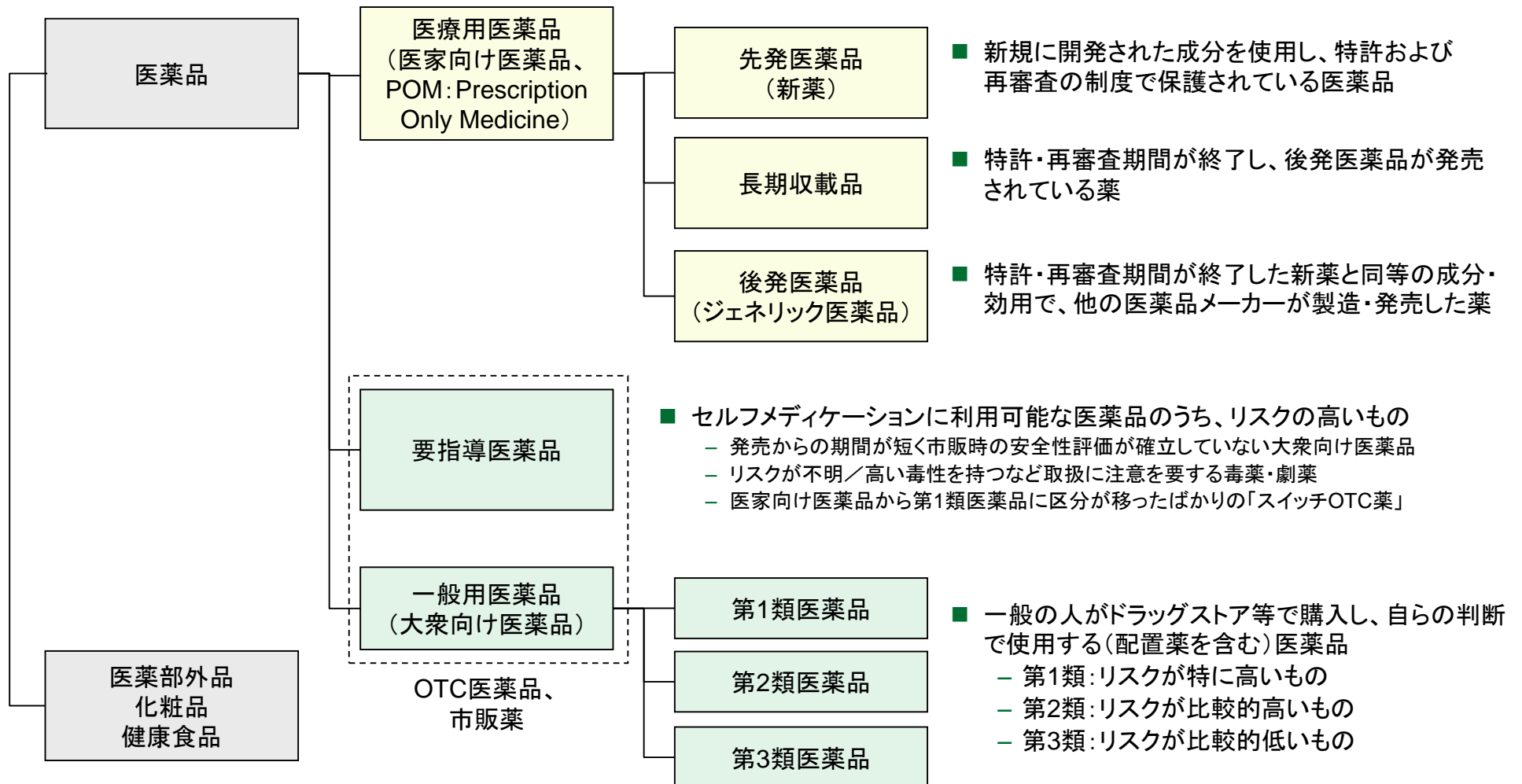
本資料の流れ



- I. 製薬会社のビジネスモデル
- II. ITを活用した新しい創薬技術の動向
- III. 今後の展望

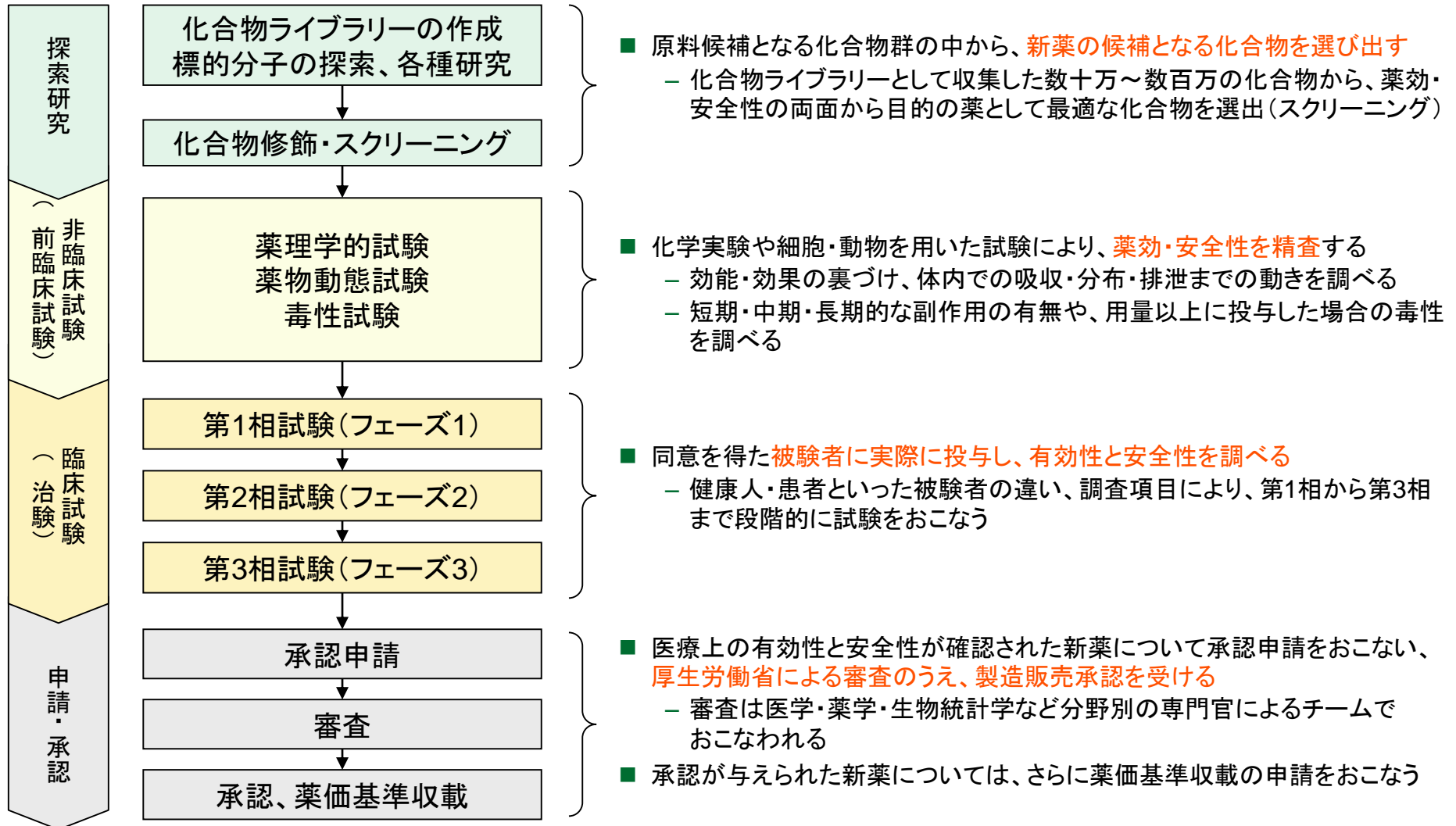
医薬品の分類

- 医薬品はその効用やリスクを考慮し、医療用医薬品とOTC(Over The Counter)医薬品に分類される
 - 医療用医薬品は医師による処方のもと薬剤師が調剤する必要がある一方、OTC医薬品はドラッグストアなどでの購入が可能



医療用医薬品の新薬開発に必要なプロセス

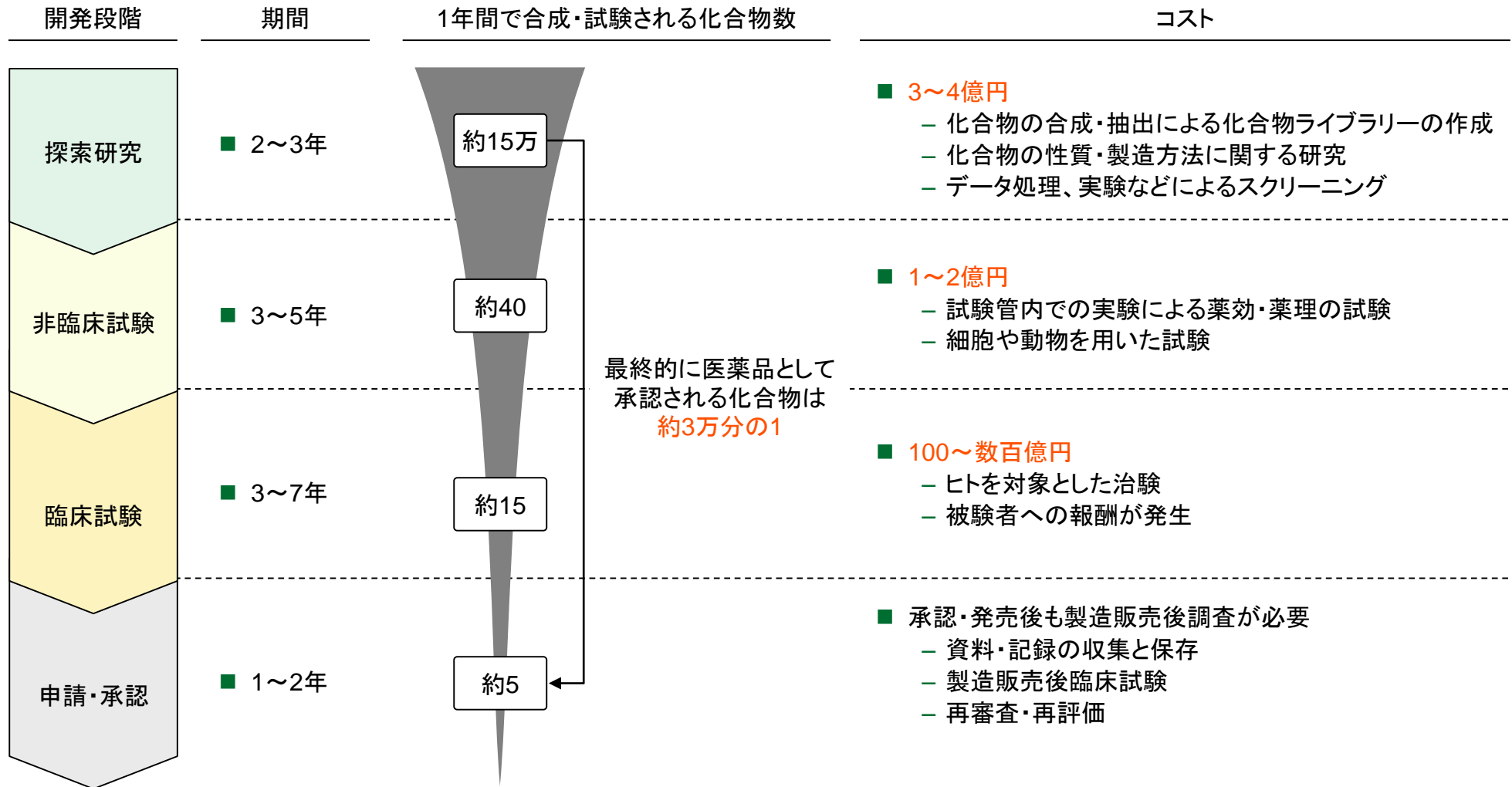
- 医療用医薬品は、化合物の発見後、有効性や安全性を確認するために多くの試験を通過する必要がある



出所: 日本製薬工業協会「日本の薬事行政」を参考に作成

新薬の承認には長い期間と多額のコストが必要

- 1つの化合物が医薬品として承認されるまでには、約3万の候補化合物が合成され、数百億円のコストがかかっている



SAMPLE版はここまでです。

続きは、業界チャンネル 特集レポート にてご覧ください。

特集レポート一覧はこちら ▶

“業界チャンネル 特集レポート”とは、

経営コンサルタントの目線で特に伸びているビジネスに注目して分析。
その成功の鍵や今後に言及し、「打ち手」を導出します。

